

# 福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

( 認定こども園 なかよしこどもセンター )

## なかよし保育園

横浜市泉区和泉町 1703-1

運営主体：学校法人 友遊学園

実施概要	1 ページ
総合評価 (評価結果についての講評)	2～4 ページ
評価領域ごとの特記事項	5～6 ページ
分類別評価結果	7～18 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	19～25 ページ
利用者本人調査分析	26～28 ページ
事業者コメント	29 ページ

作成日：2011年1月18日

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

## 実施概要

事業所名	なかよし保育園 ( 認定こども園 なかよしこどもセンター )		
事業所への 報告書提出日	2010年10月21日	評価に要した期間	13ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

## 評価方法

1、自己評価 実施期間 2009年9月中旬～7月末	<p>2010年9月に全体職員会議の場で、評価機関も参加して第三者評価の趣旨や内容についての説明を行った。</p> <p>常勤・非常勤の全職員に自己評価票を配布。各個人で記入した。各個人で自己評価票を、乳児・幼児・給食室・事務室その他の各グループ会議で意見交換しながら一項目ごとに確認・合意した。</p> <p>各グループで合意したものを、各グループの代表が持ち寄り、園長も加わって協議・合意してまとめた。</p>
2、利用者家族アンケート調査 実施期間 2010年7月1日～7月14日	<p>全園児の保護者(34世帯)に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配付した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
3、訪問実地調査 実施日:第1日 2010年8月25日 第2日 9月1日	<p>[第1日]</p> <p>午前:乳児室(0~2歳児)、幼児(3~5歳児)合同クラスで保育観察。</p> <p>昼食:乳児クラス、幼児合同クラスそれぞれで、園児と一緒に食べながら、保育観察。</p> <p>午後:書類調査後、クラス担任保育士2名、非常勤職員1名に個別に面接調査。</p> <p>その後、園長・副園長・主任に面接調査。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前:朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。</p> <p>昼食:幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。</p> <p>午後:クラス担任保育士2名、栄養士1名、主任に個別に面接調査。その後、園長・副園長・主任に面接調査。</p> <p>最後に意見交換を行い、終了。</p>
4、利用者本人調査 実施日:第1日 2010年8月25日 第2日 9月1日	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外での活動も観察した。</p> <p>幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、自然な会話の中で、適宜聞き取りを実施した。</p>

## 総合評価（評価結果についての講評）

### 【施設の概要】

神奈川県で最初の幼保連携型の認定こども園「なかよしこどもセンター」は、横浜市営地下鉄「立場」駅からバスで約10分、「通信隊」停留所下車、徒歩約7分の住宅地のはずれ、広い原っぱと林に隣接した閑静な環境にあります。「なかよし幼稚園」に、2007年（平成19年）4月、「なかよし保育園」を併設することで認定こども園「なかよしこどもセンター」がスタートしました。幼稚園の設立は旧く、1965年（昭和40年）5月、この地域の住宅地を開発した横浜生協（現：COOP かながわ）により開園。その後、父母と教職員による自主運営の時期を経て、生協より独立し「学校法人生協なかよし幼稚園」となり、認定こども園がスタートする時には、法人名を「学校法人友遊学園」と変更しました。

平成12年に建て替えられた木のぬくもりあふれる園舎は、木造一部2階建てで、1階中央には天窓のついた広いホール（中広場）があり、2階部分には地域支援や保護者の活動に使っているコミュニティルームがあります。乳児室（0～2歳児）は平成19年に新築された別棟となっていますが、本舎とはウッドデッキで結ばれ、子どもたちは自由に行き来できます。また、園庭の一隅には山羊・鶏・うさぎがいる動物小屋があり、さらに園庭の外には園の畑で野菜を栽培し、子どもたちは日常的に動物や植物の世話をしたりしています。園の近くには、米軍深谷通信所（通信隊）の広い原っぱや、多くの公園があり、子どもたちの遊び場や散歩コースとなっています。

定員は、幼稚園部門145名（3～5歳児）、保育園部門45名（0～5歳児）で、保育園の開園時間は平日7時～19時、土曜日7時～15時です。

幼児組のクラス編成は、幼稚園児と保育園児の区別なく年齢に応じたものとなっていて、日中の活動内容は全く同じであり、保育士も幼稚園児担当・保育園児担当のような区分はなく子どもたちに接しています。

保育方針を“自然はともだち 感性豊かに 考える力をつける 体ごと遊ぶ なかまと育ちあう”と定め、保育姿勢として「子どもを勇気づけて育てよう！」を掲げています。子どもたちがこれからの人生の中でさまざまな困難に出会っても自分で課題を解決できるという自信を持てるように援助することが、保育者・保護者を含めた大人の役割だと考え、“君たちには能力があります まずやってみよう 間違いから学ぼう 無理せず自分のペースでやってみよう 仲間と協力しよう”を指針としています。

なお、本報告書は基本的に「なかよし保育園」について記述しますが、子どもたちの活動や園の運営などは保育園・幼稚園一体のものであるため、認定こども園「なかよしこどもセンター」の内容を含むものとなっています。（家族アンケートについてのみ、保育園児の保護者が対象となっています。）

### 高く評価できる点

#### 1、子どもたちは、生き生きと自由に園生活を楽しみ、さまざまなことを学んでいます

子どもたちが自分の好きなことをして遊ぶ時間が十分に確保されています。各保育室や中広場には、さまざまなおもちゃや遊具、絵本、色紙、画用紙、粘土、新聞紙などが用意され、自由に取り出して仲間と遊んだり、あるいは一人で、好きなことに熱中しています。中広場では跳び箱や平均台に、園庭ではブランコや滑り台で元気に遊び、鉄棒等にも積極的に挑戦している姿が見られます。また、特に幼児組（3～5歳児）では、リレー・ドッジボール・サッカーなど、年齢に応じてルールのある遊びをする中で、子どもたちは仲間と協力することの大切さも、よく学んでいます。

さらに、園の畑で野菜を栽培し、園外活動では通信隊の原っぱで虫取りや葉っぱ拾いをしたり、近

くの公園に散歩に出かけて自然に触れ、園で飼っている山羊・鶏・うさぎを抱っこしたり、当番で世話をしたりすることで、植物や動物への愛情や命の大切さを子どもたちは感じています。

保育士は、自由遊びの時には、子どもが自分でやってみたいことに挑戦するのを危険のないよう見守り、遊びに迷っている子どもがいると、さりげなく誘いの声かけをしています。また、保育士自身も子どもたちの仲間に入って一緒に遊ぶ姿も見られます。製作や一斉活動の時も、何をやりたいかなど子どもたちの意見をできるだけ取り入れ、子どもの意思を尊重しています。また、その時、働きかけをしても一斉活動に関心を持たない子どもは参加しなくてもよく、自分の興味のあることをして、他の子とは別に遊んでいることもあります。このような場合においても保育士は、長期的な視点で子ども一人ひとりの発達・気持ちの変化を掴み、一人ひとりのペースを尊重した上で見守り、働きかけをしています。

どの時間帯でも、保育士は一箇所にかたまることなく、適当な位置に分散して子どもたちを見守り、みんなと離れて遊んでいる子どもにも必ず誰かの目が届いています。

これらの背景には、全体職員会議、学年会議などのさまざまな場で、全職員がクラスに関係なく一人ひとりの子どもの情報を共有し、保育方針や、保育姿勢である「勇気づけ」の考え方が職員の間にはっきりと浸透・定着していることが挙げられ、職員間の連携の良さにつながっています。

## 2、地域の子育て支援に力を入れています

地域の子育て支援として、一時保育・交流保育・園庭開放・プール開放等を実施しています。また、2歳～未就園児の親子を対象とした子育て支援の「ひよこサークル」を月2～3回程度開き、専任の職員を配置し、散歩や園庭・室内での親子遊びなど、計画的にさまざまなプログラムを組んでいます。

また、毎週水曜日を育児相談の日とし、育児相談員（ひよこサークル担当職員が兼務）と副園長が子育ての悩みや困っていることを聞いています。地域の人々だけでなく、園児の保護者からの相談も受けています。さらに、地域に向けての育児講座を年2回開催しています。

### 独自に取り組んでいる点

#### 幼保連携型の特色を活かす努力をしています

幼稚園時代から大切にしてきた“なかまと育ちあう”という保育方針を、保育園併設後も積極的に進めています。例えば、乳児室は別棟となっていますが、室内遊びを乳児室に限らずできるだけ本舎の中広場でも行うようにし、乳児・幼児が自然に触れあい一緒に遊ぶ機会を多くしたり、午睡後に幼児が乳児室に行き、着替えを手伝うなどしています。そのため、小さい子どもでも本舎と別棟を安全に行き来できるようハード面での工夫もしています。保育課程や指導計画の作成にあたっては、このような幼児と乳児の関わり合いの姿を参考に、0歳児から5歳児まで、より一貫したものとなるようにしています。

また、幼稚園児は午後2時で帰宅するので、幼児組の一斉活動はできるだけ午前中に重点を置き、みんなと力を合わせることの喜びを知り、社会的なルールを学ぶ機会としています。反面、幼稚園児が帰った後は、子どもたちの人数が少なくなり、年齢ごとのクラス活動が難しい面があります。そこで、今年度（平成22年度）より、午後の保育の時間を、保育園の幼児組と幼稚園の預かり保育（2時以降も残る子ども）の子どもたちが一緒に活動する一つのクラスとして「さくら組」と名付け、専任のリーダーを配置し、さまざまな活動ができるように工夫しています。例えば、みんなでおやつ作りをしたり、幼稚園児を送った後の送迎バスの空き時間を活用して、遠くの公園に出かけるなどの活動を始めています。

## さらなる工夫が望まれる点

### 1、保護者への配慮について

幼稚園創設以来、“子どもたちの為に”を合言葉にして職員と父母が繋がり支えあってきた歴史があり、保育園併設後も、「教育・保育は保護者と園との共同作業である」という理念を大切にしています。

その一環として、保護者向けに「勇気づけの会」を月1回程度開き、副園長が主体となって園の方針である「勇気づけで子どもを育てよう！」の考え方の勉強会をしています。また、年度初めに家庭訪問を行ったり、年4回クラス懇談会を開いたりして、保護者との良好なコミュニケーションを図っています。さらに、PTA（保護者会）の総会や役員会には園長・副園長などが出席してさまざまな意見交換をしています。

ただし、これらの活動の多くは昼間に行われることが多く、保育園児の保護者からは、特に園の行事やクラス懇談会などの期日や時間帯について、働く親の立場も配慮して設定して欲しいという意見が家族アンケートに多く見られましたので、今後、何らかの検討・工夫が望まれます。

### 2、人材育成について

職員の資質向上のため、園内研修として毎月、研修職員会議を開いているほか、横浜市や泉区が実施する研修会などに多くの職員が参加しています。また、近隣の二つの保育園とは月1回合同研修会を開き、職員が積極的に参加しています。さらに、毎年末に職員一人ひとりと園長・副園長が面談し、設定した目標の達成度などを話し合っています。また、個々の職員は、学期末および年度末に、保育のまとめと反省を研修職員会議の場で発表し、自己評価につなげています。

今後、人材育成計画として、園内・園外研修、現場実習（OJT）、自己啓発なども含めた総合的な育成方法を作成するとともに、経験年数や習熟度に応じた役割や期待水準を明文化していくと、職員が自分の役割は何か、どのような目標を設定すれば良いかなどが分かりやすくなり、より効果的な資質向上への取り組みとなることが期待されます。

## 改善が望まれる点

### マニュアルの整備について

「苦情解決」「感染症への対応」「事故防止・事故対応」「実習生受け入れ」のマニュアルを定めていますが、必要なことは全体職員会議などで、都度周知しているなどの理由で、その他のマニュアルは作成されていません。また、現在定めてあるマニュアルも内容的に不十分なもの・定期的な見直しが行われていないものなどが見受けられます。

マニュアルを職員参加で作成し、見直すことは、改善点等を見出す良い機会となります。具体的な作業手順のみならず、「何のために」これを行うか・行っているかを全職員が理解し、共有していることが重要です。現在行っている業務の内容を、園の目標等に沿って確認し、不足がないかなど検討し、マニュアルの整備につなげていくことが望まれます。

## 評価領域ごとの特記事項

このページは、かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って記載しています。

### 1、人権の尊重

- ・保育方針を“自然はともだち 感性豊かに 考える力をつける 体ごと遊ぶ なかまと育ちあう”と定めています。
- ・保育姿勢として「子どもを勇気づけで育てよう！」を掲げ、子どもたちがさまざまな困難に出会っても自分で解決できるという自信を持てるように援助しています。
- ・子どもの自発性を尊重する保育を大切にし、一人ひとりの子どもの気持や発言を受け入れるように職員は努めています。

### 2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・園の屋内・外は清潔に保たれています。また、園庭に面した園舎の一隅に外からも入れるトイレもあり、子どもたちが安心して外遊びできるように配慮しています。
- ・子どもたちが自分の好きなことをして遊ぶ時間が十分確保されています。一斉活動の時も、子どもたちの意見をできるだけ取り入れるようにし、子どもの意思を尊重しています。
- ・給食とおやつは、和食を中心とした献立にしています。自然農法や有機栽培などの農産物や天然の海産物、食品添加物を使わない調味料など、できる限り安全な食材を使い、手作りするようにしています。
- ・午睡は子ども一人ひとりの様子を見ながら対応しています。遅れて午睡室に入る子どもには、静かに入るように指導しています。なお、5歳児は、必要に応じて個別に対応していますが、基本的には午睡をしません。

### 3、サービスマネジメントシステムの確立

- ・年齢ごとに年間指導計画・月間指導計画・週案を作成しています。乳児(0~2歳児)については、個別指導計画を作成しています。幼児(3~5歳児)についても、障がい・アレルギー・家庭の事情など特別な課題がある場合には、個別指導計画を作成しています。
- ・特に配慮を要する子どもや障がいのある子どもを積極的に受け入れています。“いろいろな子どもがいて良い”という園創設以来の統合保育の考え方を全職員が認識し、子どもたちに接しています。
- ・家庭訪問や個人面談、年に4回のクラス懇談会、コミュニティタイムなどの機会をとらえて、保護者からの意見、要望や苦情を聞くようにしています。
- ・苦情解決規程を定め、苦情・トラブルや要望については職員会議議事録に記録していますが、これらの記録を過去の分も含め整理し、今後の課題解決に活かす体制づくりが望まれます。
- ・健康管理・衛生管理に関するマニュアル等の整備が望まれます。
- ・保護者との密接な関係が築かれていますが、家族アンケートでは保育園児の保護者から、園の行事やクラス懇談会などの期日や時間帯について、働く親の立場も考慮して欲しいという意見が多くみられるので、今後何らかの検討が望まれます。

### 4、地域との交流・連携

- ・地域の子育て支援として、一時保育・交流保育・園庭開放・プール開放などを実施しています。また、2歳~未就園児の親子を対象とした子育て支援の「ひよこサークル」を開き、専任の保育士を配置しています。
- ・七夕会、夕涼み会、なかよし祭り、運動会、バザーなどに地域の人々を招待したり、毎年1回、地域のお年寄りを園児の誕生会に招いたりするなど、地域との交流を図っています。
- ・実習生の受け入れにあたっては実習期間中に、受け入れ担当と実習生で1度反省会を行い、そこで指摘

された課題等を実習終了までに活かせるようにし、効果的な実習となるよう配慮しています。

- ・ボランティア受け入れのためのマニュアルはなく、受け入れや育成の担当者は決まっていません。

#### 5、運営上の透明性の確保と継続性

- ・職員として守るべき法や規範・倫理などを全体職員会議などで職員に周知していますが、明文化はしていません。
- ・ゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーなどに日常、積極的に取り組んでいますが、これらの取り組みを園運営の一環として明文化まではしていません。
- ・全体職員会議・研修職員会議など、あらゆる機会をとらえて園の目標を職員に伝えています。
- ・園長は、送迎時などにできるだけ保護者と意見交換をするように努めています。また、園長・副園長はPTA（保護者会）総会や役員会に出席し、意見交換したり園の意向を丁寧に伝えたりしています。

#### 6、職員の資質向上の促進

- ・毎年末に、職員一人ひとりと園長・副園長が面接し、設定した目標とその達成度を話し合っています。また、個々の職員は、学期末および学年末に保育のまとめと反省を研修職員会議で発表し、自己評価にもつなげています。
- ・近隣の二つの保育園との月1回の合同研修会の中で、他園の園長から保育技術の評価・指導を受けています。
- ・職員は職員会議などで自由に提案などをすることができます。また、園長・副園長は、いつでも職員がアイデアや改善点の提案をできる雰囲気となるように心がけています。
- ・今後は、人材育成計画として、園内・園外研修、現場実習（OJT）、自己啓発なども含めた総合的な育成について、また、経験年数や習熟度に応じた役割や期待水準についての明文化が期待されます。



## 分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。




「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。




3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある



評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

### 評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p>  <p>(1) 保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。</p> <p>(2) 保育課程は、保育の基本方針に基づき、保護者の実状などを考慮して作成されているか。</p> <p>(3) 日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育方針を“自然はともだち 感性豊かに 考える力をつける 体ごと遊ぶ なかまと育ちあう”と定めています。</li> <li>・保育姿勢として、「子どもを勇気づけて育てよう！」を掲げています。子どもたちがこれからの人生の中で、さまざまな困難に出会っても自分で課題を解決できるという自信を持てるようにすることが、保育者・保護者などを含めた大人の役割だと考え、“君たちには能力があります まずやっごらん 間違いから学ぼう 無理せず自分のペースで 仲間と協力しよう”を指針としています。</li> <li>・園の目標を次のように定めています。 なかよしこどもセンターは“子どもたちの広場”です。 ・自然の体験...野の花や虫、園の動物たちに触れ感性が育まれます。 ・人と関わる...社会生活を営むルールを学び、豊かに心を育てます。 ・あそび...自らの興味や関心をもとに、認識力や思考力、創造性を伸ばし、身体機能を発達させます。</li> </ul> <p>これらの環境の中で</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. お互いを認め合い、人を大切にする子</li> <li>2. 仲間の中で、はっきりと自分の気持ちが出せる子</li> <li>3. みんなとちからを合わせることの喜びを知り、大切にすること</li> <li>4. 心と体、そして知恵のバランスがとれて発達している子</li> </ol> <p>こんな子どもたちが育つことを目標としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の全体職員会議・各学年会議・カリキュラム会議・研修職員会議などのあらゆる機会に、園目標を意識した議論や意見交換を行い、共通理解を図っています。</li> <li>・保育課程は、年齢ごとの年間指導計画中に記載され、園目標や幼保連携型（認定こども園）であることなどを考慮し、職員会議で検討するなど、全職員が関わって作成しています。</li> <li>・年齢ごとに年間指導計画・月間指導計画・週案を作成しています。</li> <li>・指導計画は、子どもの自主性や主体性を育て、発揮できるように配慮して作成しています。また、子どもたちの遊びや活動の様子などをもとに、子どもたちの興味や関心をより一層広げるよう、その日の活動</li> </ul>




	<p>を変更したり、月間指導計画を見直したりするなど、柔軟に対応しています。</p>
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p>  <p>(1) 入園前に子どもの発達状況や課題を把握しているか。</p> <p>(2) 新入園児受け入れ時の配慮を十分しているか。</p> <p>(3) 子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園前に園長が保護者に面接し、面接時には、必ず子どもを連れてきてもらい、子どもの様子も把握しています。</li> <li>・0～2歳の園児に対しては、主担当保育士を決めています。</li> <li>・短縮保育(ならし保育)は、子ども一人ひとりの状況や保護者の希望などを考慮し、柔軟に対応しています。保護者の希望があれば、年度が始まる前の3月中に一時保育で預かることもあります。在園児に対しては、新学期からの新しい部屋で過ごす日を3月中に設けるなどの工夫をし、進級に不安の無いようにしています。</li> <li>・子どもの発達や状況に応じて、月間指導計画の作成・評価・見直しを行っています。見直し時は、乳児の場合は、トイレトレーニングや離乳食の進め方など、保護者と話し合いながら行い、幼児の場合は、アレルギーに関することや遊びについてなど、保護者の意見を取り入れるようにしています。</li> </ul>
<p>- 3 快適な施設環境の確保</p>  <p>(1) 子どもが快適に過ごせるような環境(清潔さ、採光、換気、照明等)への配慮がなされているか。</p> <p>(2) 沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。</p> <p>(3) 子どもの発達に応じた環境が確保されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各保育室とも陽光を十分取り入れ、中広場(ホール)には吹き抜け(天窓)があり、明るく木のぬくもりあふれる園舎となっています。また、園の屋内・外とも清潔に保たれています。</li> <li>・園庭に面して、園舎の一隅に外から入れるトイレがあり、子どもたちが安心して外遊びできるよう配慮しています。</li> <li>・乳児室に沐浴設備があります。また、乳児室トイレ及び外用トイレに温水シャワーがあります。これら設備の管理・清掃は十分に行われています。保育室・中広場・園庭・トイレなども含め、清掃分担を定め清潔に保つようにしています。</li> <li>・乳児室、3・4歳児室ともに、食べる場所と寝る場所を別々に確保しています。5歳児は原則として午睡をしません、必要があれば3・4歳児の午睡室を利用することができます。</li> <li>・中広場(ホール)があり、異年齢児の交流の場となっています。また、乳児室は別棟になっていますが園舎とウッドデッキで結ばれているので、子どもたちは自由に行き来することができます。</li> <li>・幼児は、乳児クラス担当の保育士に声をかけて自由に乳児室に入ることができ、午睡後の世話をしたり、一緒に遊戯をして見本を示したりすることで、年上としての自信をつけています。また、進級後も乳児室にたまに帰ることで心の癒しともなっています。</li> </ul>
<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p>  <p>(1) 子ども一人ひとりの状況に応じて保育目標を設定し、それに合わせた個別指導計画を作成しているか。</p> <p>(2) 子ども一人ひとりの発達の段階に応じた対応をし、その記録があるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児(0～2歳児)については、個別指導計画を作成しています。幼児(3～5歳児)についても、障がい・アレルギー・家庭の事情など特別な課題がある場合には、個別指導計画を作成しています。</li> <li>・個別の計画・目標は、月1回定期的に見直すほか、気になることがあった場合などは随時、担当者間で見直し、それを全体職員会議などで報告し、共有化を図っています。</li> <li>・子どもや家庭の個別の状況・要望などは「児童票」に記録し、入園後の子どもの成長発達記録は「経過記録」に記載しています。</li> <li>・子どもに関する記録は個人別にファイルし、事務室の鍵のかかる書架</li> </ul>

	<p>に保管しています。職員は誰でも必要なときに見ることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進級時には、一人ひとりの子どもの様子・配慮すべき事項などを新担任に丁寧に伝えていきます。</li> </ul>
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p>  <p>(1) 特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。</p> <p>(2) 障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。</p> <p>(3) アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができていくか。</p> <p>(4) 外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に配慮を要する子どもや、障がいのある子どもなどを積極的に受け入れています。</li> <li>・1階はフラットな造りで、玄関脇に車椅子で入れるトイレがあり、バリアフリーに配慮しています。</li> <li>・“いろんな子どもがいて良い”という園創設以来の統合保育の考えを全職員が認識しています。「子ども同士がお互いに認め合って関わりあって欲しい」という姿勢で、保育士は子どもたちを指導しています。学年会議や全体職員会議等において、障がいのある子どもが、どんな形・どんなやり方でクラスや学年の活動に参加できるかなどを話し合っています。</li> <li>・個別のケースについて、学年会議・カリキュラム会議等で話し合い、記録はファイリングしています。また、話し合いの結果を全体職員会議で伝え、情報を共有しています。</li> <li>・アレルギー疾患のある子どもの場合は、かかりつけ医の診断書や指示書に基づき、保護者と話し合い適切な対応をしています。食物アレルギーのある場合は、入園の際に保護者から食物調査票を出してもらい、栄養士・担任が保護者と連絡を取り合い、代替食・除去食を提供しています。</li> <li>・代替食・除去食を提供する場合は、トレーに乗せてラップをかけ、子どもの名前と注意事項を書き、食事の場では、必ず保育士がその子どものそばに座ることにしています。</li> <li>・食物アレルギーの子どものリストを全職員が持ち、子どもたちが行う「おやつづくり」などの活動の際にも間違いがないように配慮しています。</li> <li>・文化（言語・表現・食事）や生活習慣、考え方の違いを認め、尊重しています。また、「一人ひとりが違うのは当たり前」であることを、保育士は子どもたちに言葉で伝えていきます。</li> </ul>
<p>- 6 苦情解決体制</p>  <p>(1) 保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。</p> <p>(2) 要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦情解決規程を定めています。</li> <li>・要望・苦情の受付担当者は副園長と主任、解決責任者は園長と定め、園内に掲示し、保護者に周知しています。</li> <li>・第三者委員として、近隣の保育園園長と地域の民生委員の2名を定め、苦情解決規程には、保護者が直接苦情を申し立てることができることを定めています。</li> <li>・権利擁護機関や区役所など、外部の苦情解決窓口があることを保護者に掲示や文書等で伝えることが望まれます。</li> <li>・要望や苦情があった場合には、担任がまず詳しい話を聞き、必要に応じ園長・副園長が面談することになっています。その内容・対応策などを全体職員会議で報告し、周知を図っています。</li> <li>・個人面談や、年に4回のクラス懇談会、コミュニティタイムなどの機会をとらえて、保護者からの意見、要望や苦情を聞くようにしています。</li> </ul>




・苦情・トラブルや要望については職員会議議事録に記録していますが、これらの記録を過去の分も含め整理し、今後の課題解決に活かす体制づくりが望まれます。

## 評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p>  <p>(1)子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。</p> <p>(2)遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。</p> <p>(3)動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。</p> <p>(4)子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。</p> <p>(5)遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。</p> <p>(6)積極的な健康増進の工夫が遊びの中でなされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児クラス・幼児クラスともに、一日を通して、自由遊びの時間を十分に確保しています。</li> <li>・子どもの自発的な遊びを主体としながら、年齢に応じて徐々にルールのある遊びを取り入れています。主に午前中に、音楽に合わせて体を動かしたり、プール遊びやリレー、ドッジボール、絵画や造形、絵本の読み聞かせなどの一斉活動を取り入れています。</li> <li>・園外活動では、深谷通信隊の原っぱで虫取りや葉っぱ拾いをしたり、天王森泉公園や俣野公園、境川遊水地公園などへ散歩に行ったりするなど、地域の豊かな環境を生かし、自然に触れる機会を積極的に設けています。</li> <li>・園庭の一隅には、山羊・鶏・うさぎのいる動物小屋があり、5歳児クラスの子どもたちが当番活動として世話をしています。子どもたちが動物への愛情や命の大切さを感じられる機会となっています。</li> <li>・園庭に隣接した畑では、サツマイモやタマネギ、キュウリ、トマト、二十日大根などの野菜を栽培し、子どもたちが苗植えや収穫を楽しむとともに、その日のおやつや、キャンプでカレー作りに使うなど、食べることの喜びを感じられるようにしています。</li> <li>・手遊びや工作に使うために、色紙や画用紙、粘土、ビーズ、新聞紙など様々な素材を準備しています。また、廃木材を利用して、トンカチや釘を使った工作をしています。</li> <li>・訪問した日には、子どもたちが自由に踊ったり、好きな場所に紙を持って行き絵を描いたり、自由に電子ピアノを弾く姿などが見られました。</li> <li>・子ども同士のけんかなどは、子どもが自分の考えを伝えつつ相手の考えを受け入れる機会として捉え、できるだけ子ども同士で解決するように、保育士は危険がないように気をつけながら、見守るようにしています。</li> <li>・乳児室と、幼児保育室・ホールは別棟にあり、乳児はゆったりと落ち着いて過ごせます。ウッドデッキを隔ててすぐの場所なので、自由に行き来でき、異年齢の子どもたちが自然に交流しています。また、午後の時間は、保育園の3～5歳児と幼稚園の預かり保育の子どもたちが一緒に活動する一つのクラスのように捉え「さくら組」と名付け、専任のリーダーを配置して、さまざまな活動をしています。</li> <li>・子どもたちは跳び箱からマットに飛び降りたり、鉄棒で遊んだり、フラフープを上手に回したり、園庭でボール遊びやブランコ乗りなどをして、体を動かして活発に遊んでいました。乳児も保育士の付</li> </ul>

	<p>き添いのもと、マットなどで運動遊びをしていました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中広場には子どものためのテーブルとイスを備えた絵本コーナーがあり、子どもたちは自由に絵本を取り出して読んでいます。そのほか、マットを使った運動スペースや、ままごと遊びや積み木のコーナーを整えています。また、保育室内は、ござでコーナーを作るなどして、少人数で落ち着いて遊べる環境づくりに配慮しています。</li> <li>・全職員が子どもたちを公平で温かい態度で見守り、親しく会話を交わして信頼関係を築いています。保育士は担当クラスの子もだけでなく、違うクラスの子にも関しても把握するよう努めています。</li> </ul>
<p>- 1 保育内容[生活]</p>  <p>(7)食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。</p> <p>(8)食事の場、食材、食器等に配慮しているか。</p> <p>(9)子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。</p> <p>(10)子どもの食生活について、家庭と連携しているか。</p> <p>(11)午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。</p> <p>(12)排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食とおやつは和食を中心とし、自然農法や有機栽培などの農産物や、天然の海産物、食品添加物を使わない調味料など、できるかぎり安全な食材を使って手作りするようにしています。おやつは「4度目の食事」として捉え、おにぎりやうどん、パン、果物などを取り入れています。</li> <li>・調査員が訪問した日も、子どもたちは会話を楽しみながら食事し、たくさんの子もたちがおかわりをしていました。</li> <li>・午後のおやつ作りを子どもたちが手伝ったり、5歳児クラスの子もたちが協力してカレーを作ったりして、調理過程等にも興味を持てるようにしています。</li> <li>・七夕やクリスマス、ひなまつりなどの日は、乳児・幼児の全クラスが中広場に集まって行事食を食べてお祝いし、季節感を感じながら、大勢で食べることを楽しむ機会にしています。</li> <li>・月1回、保育園の子もも家庭からお弁当を持って来て園外にでかけ、外でお弁当を食べることを楽しんでいます。また、毎週木曜日には「全体給食の日」として、幼稚園児の分も給食を用意し、クラスみんなで給食を楽しんでいます。</li> <li>・木のお椀や陶器の皿、手触りの良い木の箸など、大きさや安全に配慮しながら、子どもが使いやすい食器を選んでいきます。また、3歳児から全員に箸を配り、いつでも挑戦できるようにするとともに、必要に応じてスプーンやフォークを用意しています。</li> <li>・栄養士は、全体職員会議で保育士から給食についての要望や子どもたちの様子を聞いて、献立や調理方法などの改善に役立てています。</li> <li>・毎年2～3月には、5歳児一人ひとりの子どもの希望を聞いて、リクエスト給食を行っています。また、子どもたちが調理室を気軽に訪れ、給食の感想などを栄養士や調理員に話しかけています。</li> <li>・月1回給食だよりを発行し、季節の食材や人気のある献立、おやつの作り方などについて、保護者に丁寧に知らせています。また、学年ごとに年2回、給食試食会を実施し、栄養士が保護者に向けて食事の大切さを伝えていきます。</li> <li>・乳児用と3・4歳児用の午睡室があり、落ち着いて眠れるようになっています。乳児は、乳幼児突然死症候群（SIDS）予防のため、うつぶせ寝にはしていません。睡眠中の呼吸確認は口元に手を当てて行っています。午睡は、一人ひとりの様子に合わせて対応し、寝るのが遅い子どもは眠くなったときに、後から午睡室に入るようにして</li> </ul>



	<p>います。なお、5歳児は、年度前半頃まで必要に応じて個別対応しますが、基本的には午睡をしていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>排泄は時間を決めてするのではなく、一人ひとりの子どもの様子を観察して、声をかけたり、トイレに連れて行くようにしています。トイレトレーニングは、保護者と話し合い、一人ひとりの子どもの発達状況に応じて対応しています。</li> </ul>
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]</p>  <p>(1)子どもの健康管理は、適切に実施されているか。</p> <p>(2)健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。</p> <p>(3)感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の視診は必ず行い、保育中に子どもの体調に変化が見られたときには、口の中を確認したり体温計で熱を測ったりして、健康状態を把握していますが、園として子どもの健康管理に関するマニュアルは作成していません。</li> <li>年2回健康診断、年1回歯科健診をそれぞれ実施し、各診断結果は連絡帳などを使って、また、特記事項があれば文書で、保護者に知らせています。</li> <li>厚生労働省の「保育園における感染症対策ガイドライン」を園の感染症等への対応マニュアルとして用い、研修職員会議で全職員に都度周知しています。</li> <li>感染症の種類や登園基準について、保護者には年2回、園だよりで知らせています。また、感染症が発生した時には、その対応や家庭での注意事項などを、送迎時に口頭で、また、メールや文書で、速やかに保護者に知らせています。</li> </ul>
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p>  <p>(4)衛生管理が適切に行われているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員は当番表に基づき担当を決めて園の内外を清掃し、清潔を保っています。給食室では、日々の清掃のほか、曜日ごとに清掃重点箇所を決めて掃除を行っています。</li> <li>園全体の衛生管理に関するマニュアルを作成して、定期的に見直しや研修を行うことなどが望まれます。</li> </ul>
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p>  <p>(5)安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。</p> <p>(6)事故や怪我の発生時および事後の対応体制が確立しているか。</p> <p>(7)外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時における緊急措置計画、事故防止マニュアル、事故対応マニュアルを作成し、全職員に配付しています。</li> <li>月1回避難訓練を行い、6月には園児引渡し訓練として保護者も参加しています。</li> <li>子どものケガについては、軽傷であっても送迎時に保護者に伝えるようにしていますが、保護者アンケートでは保育中のケガに関する説明や、その後の対応についてやや不満の声もあります。また、大きなケガは記録していますが、小さなケガの場合にも症状や発生時の状況について記録することが望まれます。</li> <li>大きなケガや事故があった場合には事故報告書に記録し、職員会議で周知するとともに改善策を話し合い、再発防止に努めています。</li> <li>園への来訪者には、確認のため、職員が声をかけるようにしていますが、外部からの不審者侵入防止策に対しては、更なる工夫が望まれます。</li> <li>不審者の侵入などの緊急時には、警察署及び契約している警備会社に緊急通報をする体制ができています。また、不審者等の情報を、警察や地域の団体、横浜市幼稚園協会、近隣の住民から得られるネットワークがあります。</li> </ul>

### - 3 人権の尊重



- (1) 保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。
- (2) 必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。
- (3) 個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。
- (4) 虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。
- (5) 性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

- ・園で実践している「勇気づけ」に基づいて、全職員が子どもに対する対応を常に意識しており、子どもに対して威圧的な言葉遣いや無視が行われないよう互いに配慮しています。
- ・保育士は、その子どもに合わせた口調で、穏やかに分かりやすい言葉で話すよう努めています。また、保育士は、温かい眼差しで見守りながら、子どもが自発的に様々なことに挑戦することを援助しています。
- ・子どもの自発性を尊重する保育を大切にし、一人ひとりの子どもの気持ちや発言を受け入れるように職員は努めています。
- ・乳児室の周りのデッキや階段など、友だちや保育士の視線を意識せずに過ごせる場所がたくさんあります。職員は危険がないように気をつけて見守っています。
- ・守秘義務の意義や目的を、実習生やボランティアを含む全職員に周知しています。個人情報の取り扱いについては、園だよりや園児名簿の注意事項に記載しています。また、年度初めのクラス懇談会で、園だよりへの写真掲載などについて保護者から了承を得ています。
- ・虐待が明白になったときや疑われる場合には、区の福祉保健センターなどに通報・相談し、保護者への対応についてアドバイスをもらうなどの連携を取れる体制ができています。

### - 4 保護者との交流・連携





- (1) 保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。
- (2) 個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。
- (3) 保護者の相談に応じているか。
- (4) 保育内容(行事を含む)など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。
- (5) 保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。
- (6) 保護者の自主的な活動の援助や意見交換を行っているか。

- ・園の方針や保育目標について、保護者には入園申し込み時に必ず話をし、入園式や年度初めのクラス懇談会、PTA 総会の際には詳しく説明をして、保護者に理解されるように努めています。
- ・年度初めに家庭訪問を行っています。個別面談は年1回保護者の都合に合わせて行うほか、希望があれば随時応じています。そのほか、年に5~6回、「コミュニティタイム」として、年齢ごとに、担任保育士と希望する保護者が気軽に話をする機会を作り、お茶を飲みながら情報交換をして一層のコミュニケーションを図っています。
- ・クラス全体の様子を伝えるクラス懇談会は、年4回実施しています。
- ・幼児クラスでは、年1回の保育参観があるほか、保護者の希望があれば随時、保育参観を受け入れています。また、親子遠足・親子プレイデイとして保育参加の機会を設けています。
- ・保護者からの相談は随時受け付けています。相談を受けた職員は、園長や副園長、主任に伝え、助言を受けられる体制ができています。また、毎週水曜に地域の子育て支援として行っている育児相談の中で、園児の保護者からの相談にも応じています。
- ・年度初めに年間行事表を配付し、園だよりに次月の予定表を載せ、保護者が予定を立てやすくしています。また、園だよりと給食だよりは月1回、クラスだよりは行事の前後など随時に発行しています。
- ・保護者に向けた「勇気づけの会」を月1回程度開催し、園で実践している「勇気づけ」について、ともに学ぶ機会を設けています。
- ・PTAがあり、七夕会・夕涼み会・バザー・講演会などを園と共催しています。また、PTAの自主活動として、地区懇談会・クラス懇親会など、保護者間のコミュニケーションを図る機会があります。そのほか、PTAには、お茶・体操・人形劇・コーラス・太鼓などのサークル、

コミュニティカレッジ・ソーラン同好会・ホームページ委員会などの同好会があり、積極的に活動しています。園では保護者の活動場所として、2階のコミュニティルームを提供しています。



- ・PTA 総会には園長、副園長、主任を含む5人程の職員が出席して、活発に意見交換をしています。また、保護者会での催しや、スポーツ等の集まりに、要請があれば職員も参加するなど、日常から協力関係を築く努力をしています。

## 評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p>  <p>(1) 地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。</p> <p>(2) 地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子育てニーズを把握するために、泉区主催の園長会や勉強会に園長や副園長が出席しています。また、地域の子育て支援についてどんなことができるかを職員会議で全職員が話し合っています。</li> <li>・毎週水曜日に、地域に向けた育児相談を行っており、その中で子育ての悩みや園への要望を聞いてニーズの把握に努めています。</li> <li>・地域に向けた子育て支援サービスとしては、一時保育（主として1歳半～3歳児）、交流保育、園庭開放、夏休みプール開放、2歳～未就園児の親子に対する子育てサークル「ひよこサークル」を実施しています。「ひよこサークル」は、専任の職員（育児相談員が兼務）が担当し、2階のコミュニティルームや園庭などで活動しています。</li> <li>・地域に向けての育児講座を年2回開催しています。</li> <li>・卒園児を中心とした地域の小学3年生以上の子どもを対象に、毎年7月にキャンプ場で2泊3日の「なかよしキャンプ」を行っています。</li> </ul>
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p>  <p>(1) 地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。</p> <p>(2) 相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週水曜日に育児相談日を設け、育児相談員と副園長が応じています。他の曜日に相談が寄せられた際には随時、園長と副園長が対応しています。</li> <li>・園のホームページで、子育て相談に関する曜日・時間・担当者について情報提供しています。</li> <li>・主に園長と副園長が、相談内容に応じて横浜市発達障害者支援センターや戸塚地域療育センターなどの関係機関と連携して対応しています。今後は、職員間でも関係機関の情報を共有することが望まれます。</li> </ul>



評価領域 **開かれた運営**

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p>  <p>(1) 保育園に対する理解促進のための取り組みを行っているか。</p> <p>(2) 子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七夕会や夕涼み会、運動会、なかよし祭り、バザーなどの園の行事が多数行われ、地域の人を招待しています。また、地域のお年寄りを園児の誕生会に年1回招いたりしています。そのほか、自閉症などの障がいのある人を対象とした絵画造形サロンに、月1回保育室を開放しています。</li> <li>・湘南台文化センターやいずみ台公園・踊り場公園のログハウスなどを、午後の園外活動に利用し、子どもたちの地域理解を深める一助としています。</li> <li>・深谷通信隊の原っぱや公園への散歩の途中で、子どもたちから地域の人々に積極的に話しかけたり、挨拶を交わしたりしています。近隣の商店には、子どもたちがおやつ作りに使う材料を買い物に行くなど交流しています。</li> <li>・近隣の2つの保育園と、年1回合同でドッジボールの試合を行ったり、散歩で会ったときには挨拶を交わして交流しています。</li> <li>・子どもたちが地域の活動にも参加できるよう、地域の小学校や保育園の行事のポスターを掲示したり、地域の子育てボランティアグループによる催しのチラシを保護者に配ったりしています。</li> <li>・園周辺には行事前に手紙を配ったり、年末に園長が挨拶回りをするなど、友好的な関係作りに努めています。</li> <li>・今後は、保育園に対する理解促進のためにも、自治会や地域の団体等との計画的な交流が望まれます。なお、園では、来年2月に行われる下和泉地区センターの催しに、園児が歌や踊りで参加予定です。今後の定期的な交流となることが期待されます。</li> </ul>
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p>  <p>(1) 将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。</p> <p>(2) 利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園のホームページは、PTAのホームページ委員会と協力して毎月更新し、詳しく園の内容を紹介しています。また、園のパンフレットを泉区地域子育て支援拠点『すきっぷ』と戸塚区地域子育て支援拠点『とつとの芽』等の関係機関に配付し、園のサービス内容に関する情報提供をしています。</li> <li>・園に関する情報は、横浜市こども青少年局の『はびねすぽっと』や、神奈川県の子ども・子育て支援、泉区子育て支援スペース『ちょこっといずみ』や、横浜市幼稚園協会の各ホームページにも紹介されています。また、地域の生活情報紙等にも掲載されました。</li> <li>・園の基本方針や利用条件、保育内容についての問い合わせに対しては、園長・副園長・主任が随時対応しています。また、園の見学は保育に支障をきたさない範囲で、できるだけ希望日時に応じています。</li> </ul>



### - 3 ボランティア・実習の受け入れ



- (1) ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。
- (2) 実習生の受け入れを適切に行っているか。

- ・地域の方がボランティアとして野菜の栽培方法を子ども達に指導してくれたり、実習生が実習後に保育ボランティアとして来てくれています。また、中学生の体験実習を受け入れています。
- ・今後、園としてのボランティア受け入れのためのマニュアルを作成し、受け入れ担当者を決めて育成に貢献することが望まれます。
- ・実習生受け入れについてはマニュアルに基づき事前にオリエンテーションを行い、園の保育方針や特長、注意事項などを説明しています。
- ・実習生受け入れについては園長と副園長が担当し、希望を考慮しながら実習に入るクラスや活動内容を決め、保育の楽しさややりがいを感じられる実習となるよう、丁寧に対応しています。
- ・実習期間終了の数日前には、指導担当の保育士と実習生で反省会を行い、そこで指摘された課題などを実習終了までに活かせるようにしています。

## 評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育園の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。</li> <li>(2) 職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。</li> <li>(3) 非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年末に、職員一人ひとりと園長・副園長が面談し、設定した目標とその達成度を話し合っています。また、個々の職員は、学期末および年度末に、保育のまとめと反省を研修職員会議の場で発表し、自己評価につなげています。</li> <li>・人材育成計画は作成していません。</li> <li>・毎月1回、園内研修として、研修職員会議を開き、職員・非常勤職員とも必要な職員が参加しています。</li> <li>・横浜市や泉区が実施する研修会や、全国保育団体合同研究大会など外部研修に職員が積極的に参加しています。また、近隣の2保育園とは月1回、合同研修会を開き、多数の保育士が参加しています。</li> <li>・非常勤職員の指導は、主任・各クラスリーダーが担当し、常勤・非常勤職員ともにコミュニケーションが円滑になるようにしています。また、乳児組(0~2歳児)担当の非常勤職員会議を月1回開き、園に対する要望なども把握する機会としています。また、非常勤職員は、月1回の学年会議に参加し、常勤職員とともに子どもたちへの接し方、保育技術などについて話し合っています。</li> </ul>
<p>- 2 職員の技術の向上</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の学年会議、カリキュラム会議、研修職員会議、給食・事務・用務員も含めた全体職員会議など、あらゆる機会をとらえて、園全体や一人ひとりの子どもに対する保育サービスの向上に努めています。また、研修職員会議においては、各職員が担当クラスの実践報告をするとともに、保育のまとめと反省を発表し、自己評価につなげています。</li> <li>・近隣の2保育園との月1回の合同研修会の中で、他園の園長から保育技術の評価・指導等を受ける機会を設けています。</li> </ul>



- 3 職員のモチベーション維持



(1) 本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。

- ・日常の保護者との対応など、現場の職員にできるだけ任せるようにしています。判断に困るような場合には、園長・副園長に相談・助言を受けたり、職員会議で検討したりするなどの対応をしています。また、経験の浅い職員には経験者がフォローするなど、個々の職員の経験や能力に応じたバックアップを心がけています。
- ・職員は、職員会議等の場で自由に提案などをすることができます。また、園長・副園長は、いつでも職員がアイデアや改善点の提案をできる雰囲気となるように心がけています。
- ・経験・能力や習熟度に応じた役割を、期待水準として明文化はしていません。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p>  <p>(1) 事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。</p> <p>(2) サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他施設での不正・不適切な事案などのニュースや情報を、全体職員会議などで伝え、事例研究の材料とし、啓発を行っています。</li> <li>・職員として守るべき法や規範・倫理などを、全体職員会議などで職員に周知していますが、明文化はしていません。</li> <li>・牛乳パック・ダンボール・廃木材などを教材に利用したり、園で飼っている山羊・鶏・うさぎの糞を堆肥化して園の畑で利用したり、幼児組でゴミ分別に取り組んだり、ゴミ減量化・リサイクルに日常的に取り組んでいます。また、園とPTAが協力して、年2回、地域の資源ゴミ回収を行っています。</li> <li>・ゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーなどに積極的に取り組んでいますが、これらの取り組みを園運営の一環として明文化まではしていません。</li> </ul>
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p>  <p>(1) 保育園の理念や基本方針等について職員に周知されているか。</p> <p>(2) 重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を求めたり説明しているか。</p> <p>(3) 主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体職員会議・研修職員会議など、園長はあらゆる機会をとらえて園の理念や目標を職員に伝えていきます。特に新任をまじえた年度初めの研修職員会議では、園創設の歴史や特徴、園の目標を達成するための心構えなどを詳しく説明しています。</li> <li>・園長は、送迎時などにできるだけ保護者と意見交換をするように努めています。また、園長・副園長は、PTA総会や役員会に出席し、意見交換したり園の意向を丁寧に伝えたりしています。</li> <li>・重要事項の決定に当たっては、保育・給食・事務などの異なる部門の職員のほか、必要に応じPTAからも保護者代表が参加して、実行委員会を編成する仕組みがあります。</li> <li>・副園長は、クラス日誌などで職員一人ひとりの業務状況を知るほか、日々現場に出てそれぞれのクラスの保育の様子を把握し、個々の職員の能力や経験に合わせ、的確な助言や指導を行っています。また、主任は、職員の個人的な事情なども配慮して、勤務シフトを作成し、職員が精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるように努めています。</li> </ul>

### - 3 効率的な運営



(1) 外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。

(2) 保育園運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。

- ・認定こども園（幼保連携型）の制度的な今後の動向に注目しつつ、現状での設備や保育内容の改善点など、幹部職員間で議論しています。
- ・運営面の重要な改善課題として、今年度（平成 22 年度）は、幼児組の午後の活動内容（保育園幼児組と幼稚園の預かり保育との合同保育）について、より一層効果的なものとするを設定しました。午後の保育時間を、一つのクラスのようにとらえ「さくら組」と名付け、さまざまな活動に園全体として取り組んでいます。
- ・今後の園のあるべき姿などを、理事会・評議員会などで意見交換していますが、中長期計画としてまとめるまでには、まだ至っていません。
- ・顧問の税理士から運営に関する助言を受けているほか、理事の一人が発達障がいについての専門家であり、保育に関する助言を受けています。

## 利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2010年7月1日～7月14日
- 2、実施方法 園から、保育園児の全保護者に直接手渡しで配付し、回答を依頼。  
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 67.6%（34枚配付、23枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...4人、1歳児クラス...4人、2歳児クラス...5人、3歳児クラス...4人、  
4歳児クラス...3人、5歳児クラス...3人

同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。  
文中の「満足」「満足度」は、「満足」・「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、  
「不満」は、「不満」・「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

### 家族アンケート分析：まとめ

- ・子どもの自主性を尊重した保育に賛同する保護者は多く、園の総合的な評価として90%以上の保護者が満足しています。
- ・日常の保育内容では、“遊び”について、「戸外遊び」「自然に触れたり地域の関わる園外活動」「友だちや保育者との関わり」「健康づくりへの取組み」に高い評価が得られています。“生活”については、「給食の献立内容」「給食を楽しんでいるか」「午睡や休憩を子どもの状況に応じてしているか」の項目で、特に満足度が高くなっています。
- ・“不審者の侵入が心配である” “保育中にあったケガに対する説明が不十分な時がある” “保護者参加の行事が幼稚園児の保護者中心になりがちなので、日取りや時間帯に、働いている保護者に対する考慮がもう少し欲しい” という意見が複数あります。

## 利用者（園児）家族アンケート集計結果

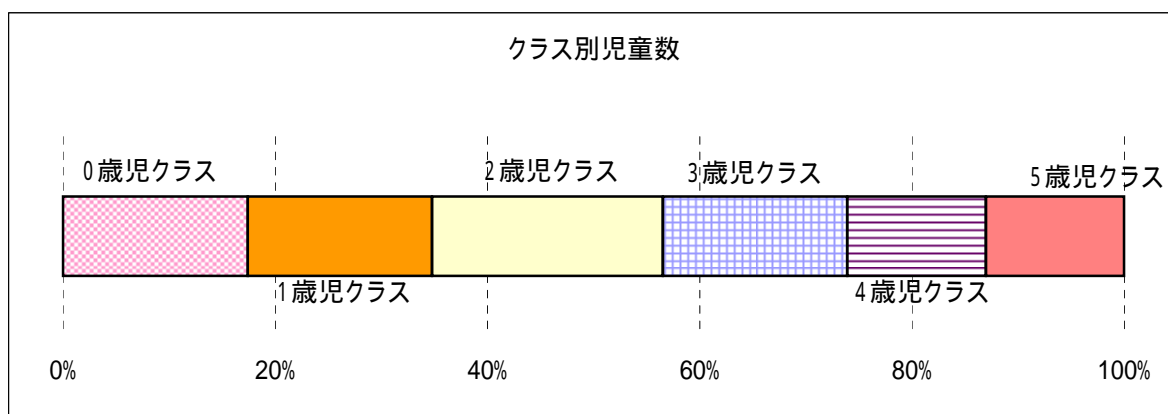
実施期間： 2010年 7月1日～7月14日

回収率： 67.6% （回収23枚 / 配布34枚）

### 【属性】

クラス別児童数								(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答	
23	4	4	5	4	3	3	0	

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入





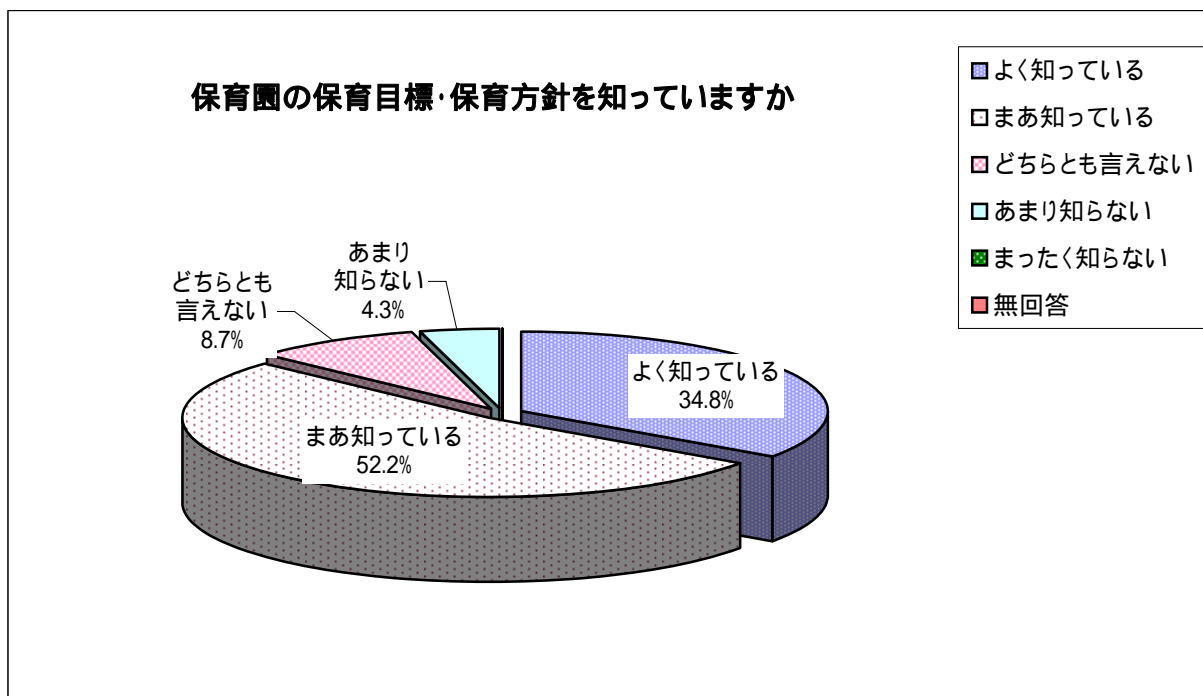
## 保育園の基本理念や基本方針について

### 問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	34.8	52.2	8.7	4.3	0.0	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

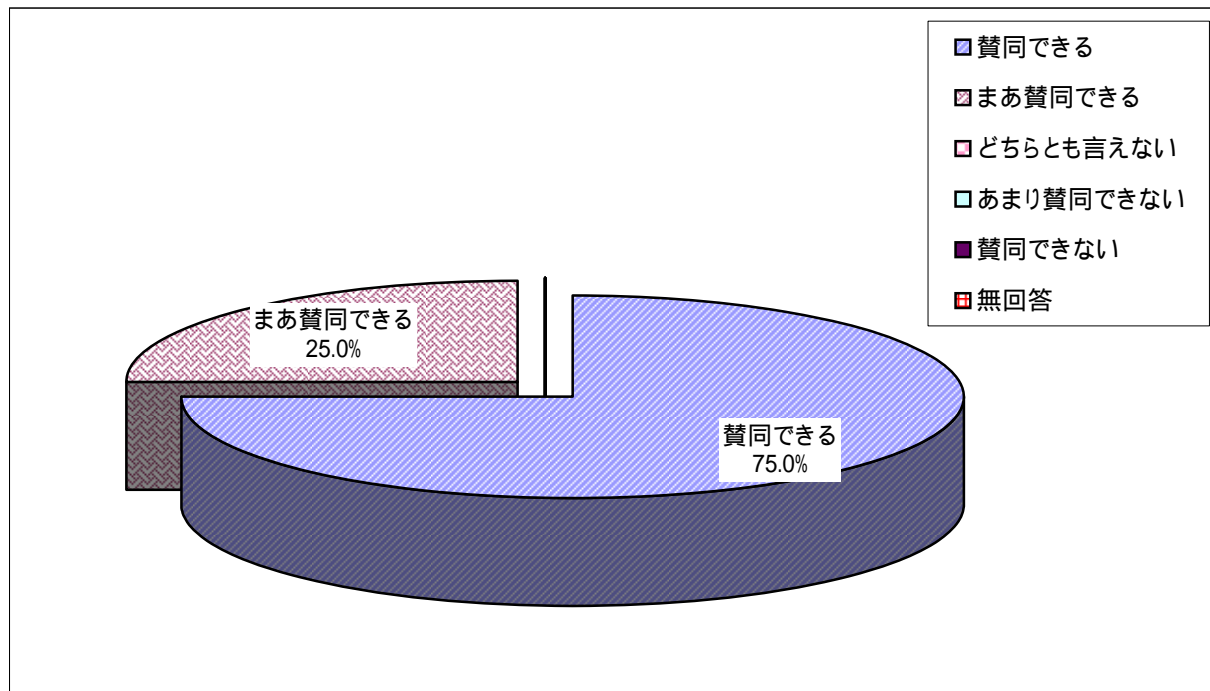


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

### 付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100





# 保育園のサービス内容について

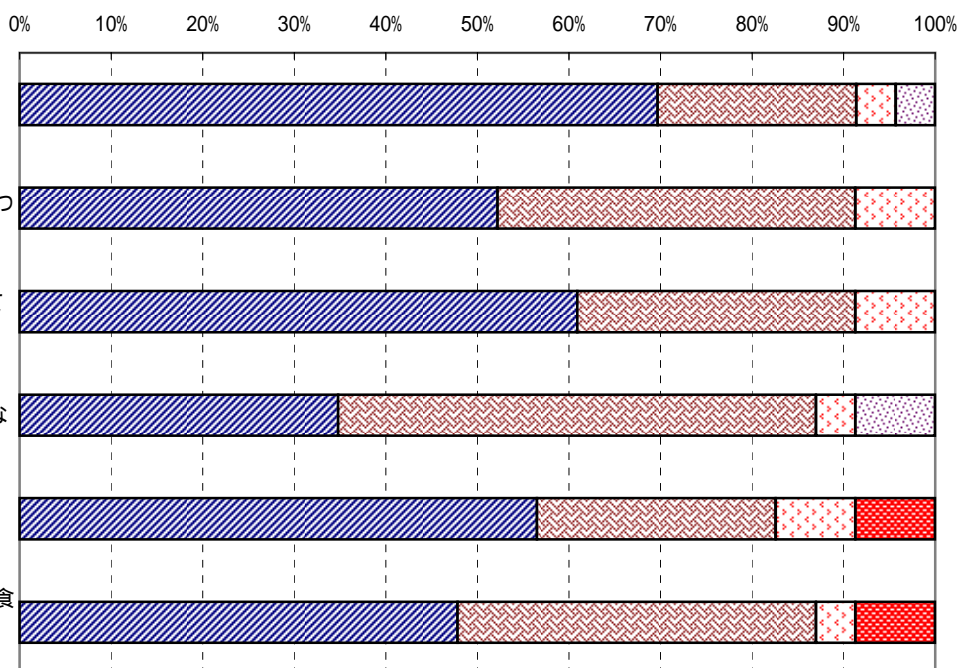
## 問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	69.6	21.7	4.3	0.0	4.3	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	52.2	39.1	8.7	0.0	0.0	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	60.9	30.4	8.7	0.0	0.0	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	34.8	52.2	4.3	0.0	8.7	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	56.5	26.1	8.7	8.7	0.0	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	47.8	39.1	4.3	8.7	0.0	0.0	100

### 入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



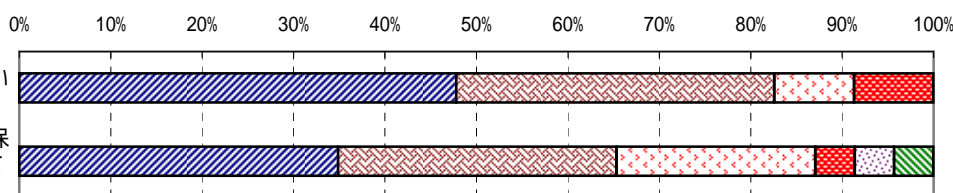
## 問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	47.8	34.8	8.7	8.7	0.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	34.8	30.4	21.7	4.3	4.3	4.3	100

### 年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



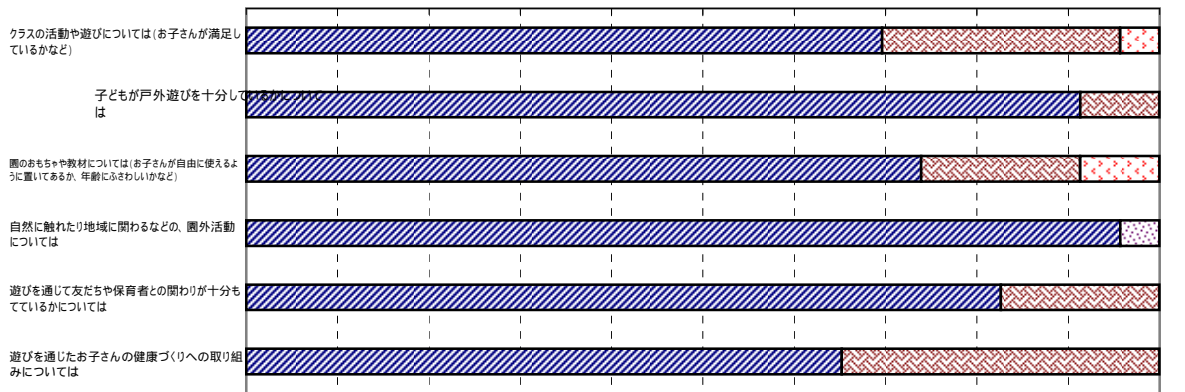
### 問4 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	69.6	26.1	4.3	0.0	0.0	0.0	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	91.3	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	73.9	17.4	8.7	0.0	0.0	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	95.7	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	82.6	17.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	65.2	34.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100

#### 日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

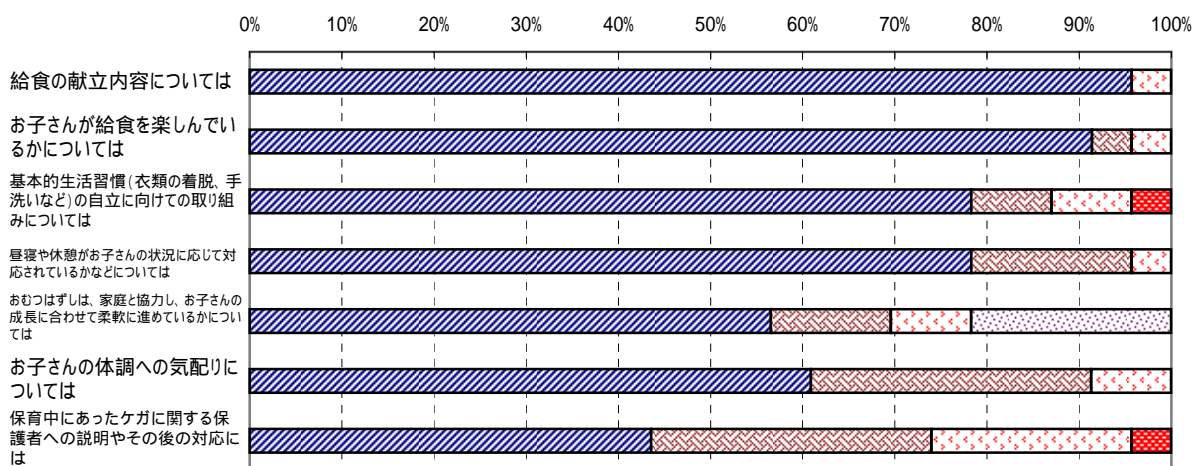


(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	95.7	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	91.3	4.3	4.3	0.0	0.0	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	78.3	8.7	8.7	4.3	0.0	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	78.3	17.4	4.3	0.0	0.0	0.0	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	56.5	13.0	8.7	0.0	21.7	0.0	100
お子さんの体調への気配りについては	60.9	30.4	8.7	0.0	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	43.5	30.4	21.7	4.3	0.0	0.0	100

#### 日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



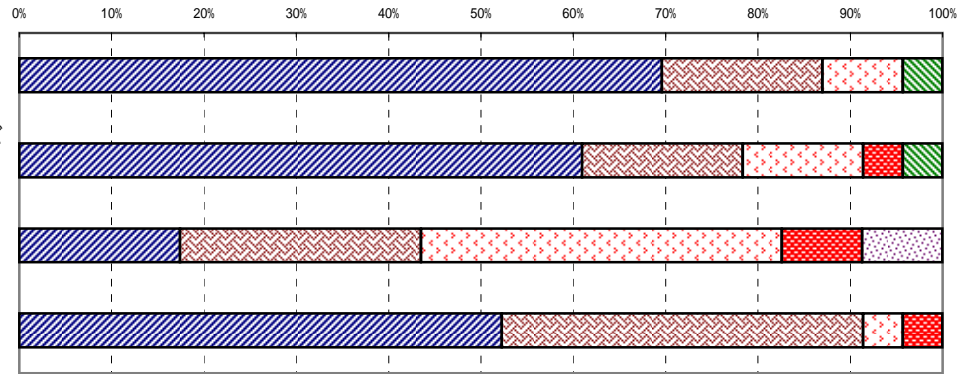
### 問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	69.6	17.4	8.7	0.0	0.0	4.3	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	60.9	17.4	13.0	4.3	0.0	4.3	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	17.4	26.1	39.1	8.7	8.7	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	52.2	39.1	4.3	4.3	0.0	0.0	100

#### 快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



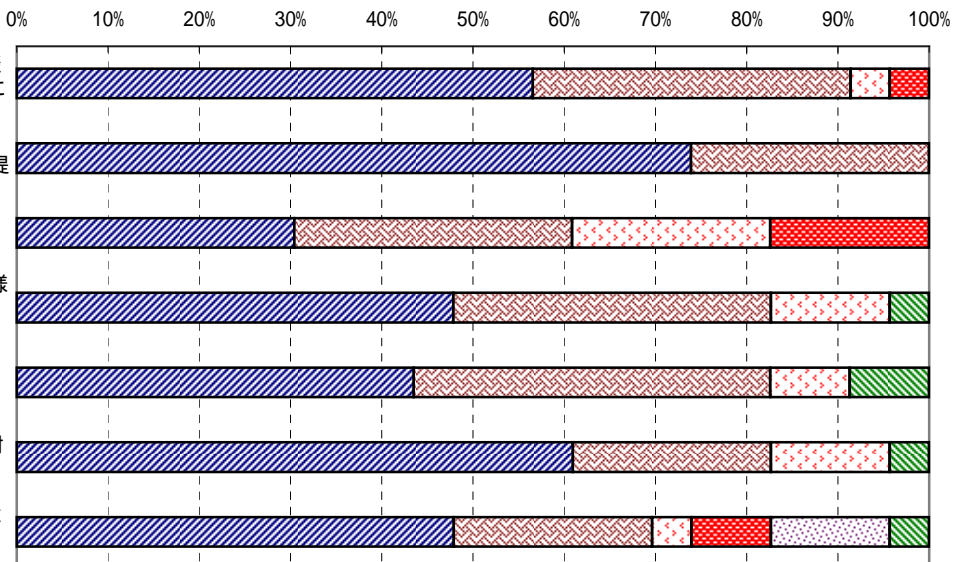
### 問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	56.5	34.8	4.3	4.3	0.0	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	73.9	26.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	30.4	30.4	21.7	17.4	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	47.8	34.8	13.0	0.0	0.0	4.3	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	43.5	39.1	8.7	0.0	0.0	8.7	100
保護者からの相談事への対応には	60.9	21.7	13.0	0.0	0.0	4.3	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	47.8	21.7	4.3	8.7	13.0	4.3	100

#### 園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



### 問7 職員の対応について

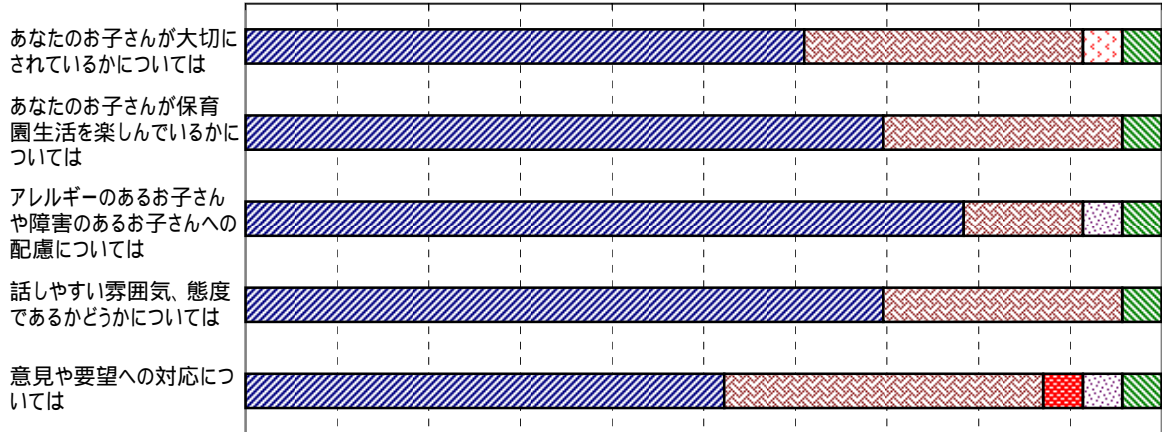
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	60.9	30.4	4.3	0.0	0.0	4.3	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	69.6	26.1	0.0	0.0	0.0	4.3	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	78.3	13.0	0.0	0.0	4.3	4.3	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	69.6	26.1	0.0	0.0	0.0	4.3	100
意見や要望への対応については	52.2	34.8	0.0	4.3	4.3	4.3	100

#### 職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

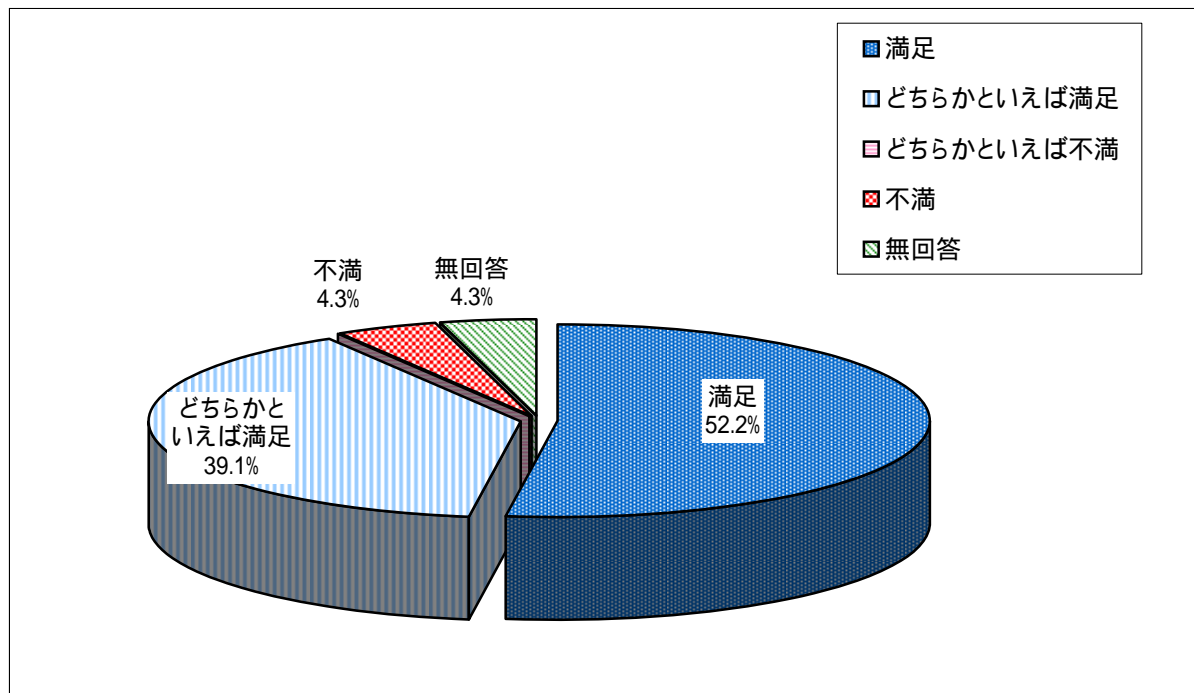
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



### 問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	52.2	39.1	0.0	4.3	4.3	100



## 利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 8月25日（水）9：00～18：00 9月1日（水）8：30～17：00

観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

乳児クラス（0・1・2歳児のクラス、どんぐり組・つくし組・たんぼぼ組）

乳児は年齢ごとにクラスは分かれています、ほとんどの活動は一緒に行っています。

朝のおやつはおこしと豆乳です。子どもたちはおこしを美味しそうに食べています。

おやつが終わった子どもから順番に、オムツを替えてもらいます。パンツの子どももいます。オムツやパンツがぬれていない子どもは保育士がトイレに誘います。「出たー」「出たねー」という声が聞こえました。

2、3人の子どもが中広場に遊びに行きました。保育士も中広場と乳児室を行き来して子どもの様子を見守ります。乳児室では、子どもたちはおもちゃで遊んだり、音楽をかけてもらって体を動かしています。保育士は頻繁に子どもの人数を数え、一人ひとりがどこで何をしているか、確認し合っています。

10時頃にはトレーニングパンツに履き替えて、デッキの乳児用プールで水遊びです。0歳児の2人は裸で大きなたらいの水に入り、保育士一人がそばに付き添います。とびひの子どもにも保育士が付いて、シャワーの辺りで他の子とは別に水遊びをしています。

11時になると水遊びを終わります。ずっと中広場で遊んでいた子どもたちも、保育士や幼児クラスの子どもに連れられて戻ります。中広場のマットの上で疲れて寝てしまった子どもも保育士に抱っこされて戻り、食事の時間まで布団で寝ていました。保育士と子ども2人が給食を取りに行くと、幼児クラスの子どもと保育士も加わって、一緒に運びます。

0歳児は先に離乳食を食べ始め、保育士が子どものペースに合わせて介助し、1・2歳の子どもたちは「お手でぱっちゃん、大きな声でいただきます」で食べ始めます。今日の給食は冷やし中華で、子どもたちはフォークを使ってよく食べていました。子どもが「1人で食べた！」と言うと保育士は全員で「すごい」と答えていました。

食事の終わった子どもから寝間着に着替えます。眠くなった子どもから隣の午睡部屋へ行くようにしているので、寝つきはスムーズでした。

幼児クラス（訪問調査1日目は幼稚園部の夏休み期間中のため、通常よりも全体の人数が少なく、3～5歳児は合同の保育でした）

朝の9時になると、自然に子どもたちは5歳児の保育室に集まります。3人の子どもが前に出て、保育士に手伝ってもらいながら一人ひとりの名前を呼んでいきます。

子どもたちは元気に「はい！」と答えています。連絡事項を伝えてから、保育士が「動物当番やりたい人？」と聞くと、4、5人の子どもが手を挙げました。朝の会が終わると、この子どもたちは保育士と一緒に動物小屋の掃除を行い、掃除の後には鶏を捕まえて、嬉しそうに抱っこしていました。

中広場や砂場、デッキなど、好きな場所でグループに分かれて、子どもたちは元気に遊んでいます。年齢の違う子どもも自然と一緒に遊んでいます。1人で遊ぶ子もいますが、しばらくすると自分から「入れて」「一緒に遊ぼう」と言って友達と遊びます。

ケンカはほとんどが子どもたち同士で解決しています。保育士は、子どもが仲間の中ではっきりと自分の気持ちが出せるように見守りながら、介入しないようにしていました。

10時になると保育士に言われる前から、子どもたちが「プールだよ」「片付けだ」と大きな声で言いながら、おもちゃなどを片付け始めます。「プールやりたい人、着替えるよ」と保育士は声を掛け、子どもたちはそれぞれ自分のペースで着替えます。



プールでは子どもたちは元気いっぱい、水を掛け合ったり、好きな遊具を使って遊んでいます。デッキでは2、3人の子どもたちが、洋服のまま深みのある大きなたらいに足をつけて、水遊びを楽しんでいます。保育士はプールの中に入ったり、プールやたらいのそばに立って、一緒に遊びながら見守っています。

11時半にはプールや自由遊びを終えて、食事の準備です。子どもたちは手を洗ってから5歳児クラスに集まります。「今日は...洋服に黒が入っている人」などと呼ばれる順にトレーを持って並び、御飯やおかずなどを乗せて自分の席まで慎重に運びます。苦手な食べ物がある時は、受け取る時に保育士に言って量を減らしてもらい子どももいます。食事では3歳児も含め、ほとんどの子どもが箸を上手に使っています。箸を握ってしまう子どもが「こうなっちゃう」と言うと、保育士は「いいんだよ。そうやってみんな、うまく使えるようになるんだよ」と応じていました。

食事が終わった子どもから、配膳台のかごの中に食器を片付け、中広場で遊び始めます。3・4歳児は、すぐに午睡部屋に行って寝間着に着替える子どもが多く見られましたが、しばらく遊んでから「そろそろ行く？」と保育士に声を掛けられて午睡に向かう姿もありました。

2学期の始業式の様子（訪問調査2日目は幼稚園部の夏休み明け初日だったため、中広場に全クラスが集まり10時半から20分ほど始業式が行われました）

乳児クラス、3・4・5歳児クラスの順に、中広場に集まります。保育士がクラス名を呼んでいくと子どもたちは元気よく返事をしますが、子どもたち同士で話をする声もあり、落ち着かない様子です。

「みなさん、おはようございます」園長が前に出て、夏休みのことや、今度行く予定の江ノ島遠足について話してから、「楽しいことの裏側には、何があるんだっけ」と聞きました。子どもたちは「坊主！」と答え、徐々に落ち着いて、危険な海坊主などに例えた遠足での注意事項を聞いていました。

その後「坊主の出てくる遊びをします」で幼児クラスの保育士も前に出て、わらべ歌の集団遊び「今年の牡丹」を始めました。「今年の牡丹は良い牡丹...」「誰かさんの後ろに蛇がいる...」と、鬼役の先生や子ども役の先生たちの演技に、子どもたちは真剣に見入り、楽しそうに笑っていました。

最後に2人の新入園児の紹介がありました。どちらも在園児の兄弟だったので、名前を知っている子どもも多く、みんな喜んで迎えていました。

### 3歳児クラス（りす組）

登園すると子どもたちは、リュックなどの荷物を慣れた様子で整理して、すぐに遊び始めます。中広場ではボール投げやブロック遊びをし、保育室では折り紙をはさみで切ったり、乗り物のおもちゃで遊んでいます。園庭で三輪車やブランコに乗ったり、保育士に手伝ってもらって水着に着替え、プールで遊ぶ子どももいます。担任以外の職員も、子どもたちに危険がないように気をつけながら見守っています。

10時を過ぎるとプールを終え、子どもたちは保育室に集まって、折り紙で遊んだりおもちゃを片付けたりしています。「始業式が始まります。中広場行きです。」保育士が先頭になって電車ごっこのように子どもと保育室の中を歩き回ると、まだ遊んでいた子どもたちも加わって全員が繋がりました。「トイレに行きたい人はいませんか」と確認してから、「りす号、出発」。

始業式のあと、子どもたちは保育士の呼びかけで、帽子を被って園庭に出て「今年の牡丹」を1回行いました。その後は自由に、ブランコやボール遊びなどを楽しんでいました。

### 4歳児クラス（いちご組・みかん組）

朝、荷物を整理すると子どもたちは好きな場所で活発に遊んだり、おしゃべりを楽しんでいます。中広場の鉄棒では、上手に出来る子どもが他の子どもに教えています。教えられた子はうまく出来なくても落ち込むことなく、それぞれ出来たところまでに満足して次の子どもと交替しています。

10時を過ぎると子どもたちが保育室に集まります。保育士はその日の日付と、2学期が始まったことを

伝えます。保育士の「立てやホイ、座れやホイ、座れやホイ…」で、子どもたちが座っていき、全員が揃ったところで、「立てやホイ。列車出発します。」クラスごとに整列して、始業式に向かいました。

始業式から戻ると、それぞれのクラスの保育室に分かれて活動しました。出席確認をしてから、ハンカチ落としやボール遊びで、クラス全員で体を動かして遊びます。休憩を入れて水を飲み、次は絵本の読み聞かせの時間です。子どもたちはリュックを抱えて聞き、絵本が終わると、配られた園だよりなどをリュックの中へ入れます。幼稚園部の子どもたちが 11:00 過ぎに帰ってからは、食事の時間まで子どもたちは自由に遊んでいました。

#### 5 歳児クラス（もり組・かわ組）

朝の時間は、子どもたちは様々な場所で自由に遊んでいます。保育室では木製の積み木で遊んだり、電子ピアノを自由に弾いたり、テーブルでビーズの紐通しをしています。園庭や中広場で身体を使って遊んでいる子どもたちは、水をこまめに飲んでいきます。

10 時になると、子どもたちは自然に片付け始めます。まだ遊びたい子どもも、保育士の「片付けてー」の声で片付けます。「年長さん、ありがとう、とてもきれいになりました。」とお礼を一言伝えてから、保育士が出席確認をします。

始業式後は、すぐにプールの準備です。プールに入らない子どもたちは、テーブルでの粘土遊びなどをしていました。

幼稚園部の子どもたちが帰ってから食事の時間まで、保育室を広く使って 5、6 人の子どもたちが木製の積み木と板で道（コース）を作り、ジャンケンで勝った方が進むというルールを自分達で作って、遊んでいました。

#### まとめ

子どもたちは保育室や中広場、園庭など、園の敷地内を自由に行き来して、好きな遊びを楽しみ、のびのびと生活しています。乳児も幼児も、たくさん体を動かしながら遊んでいます。保育士と子どもたちや、子どもたち同士の言葉のやり取りは活発です。子どもたちは自分の言葉で気持ちを伝えることを学んでいます。

また、子どもたちは保育士に「～しなさい」などと言われなくても、活動を自発的に始めることができます。

保育士は、園で実践している「勇気づけ」の姿勢に基づいて、子どもの失敗や出来ないことには別の角度から見た言葉で応じたり、温かいまなざしで見守っています。園全体での集まりや、園内のいろいろな場所で遊ぶ子どもたちをさりげなく見守る様子には、職員同士の連携の良さがうかがえます。



## 事業者コメント

なかよし幼稚園創立 43 年目に於いて保育園併設。幼保一体型の認定こども園「なかよしこどもセンター」として新たなスタートをした当園は、保育園創立 3 年目に第三者評価を受けることにしました。

子ども達が育つ土壌は幼稚園であっても保育園であっても同じな事。幼稚園の歩みの中で創立以来大事に受け継がれてきた 教職員と保護者が一緒に“子ども中心”の園づくり の想いは、必ずや保育園併設後のなかよしこどもセンターにも生かせるはず。なかよし幼稚園で育っている子ども達が子ども時代を存分に謳歌しているその姿に、保育園に加わった幼児のみならず乳児をも含めて、なかよしこどもセンターの一つ屋根の下で育つ子ども達の姿を思い浮かべながらの保育園併設でした。

しかしそうした想いと別に幼稚園と保育園の国の制度的違いから、現場（なかよしこどもセンター）の中での運営や経営の難しさを実感し、その間を埋めることに懸命に取り組んできたここ数年でした。

今回第三者評価を受ける中で、幼稚園の歴史の中で培われてきた子ども達の生き生きとした生活の場として、園が高く評価され、また保護者の方にも理解されていることは大変にうれしい事と思います。しかしその一方、倍以上に増えた職員達が共通の理解のもとに子どもの保育や生活に携われるための人材育成へのさらなる取り組みや各マニュアルの整備の必要性、また、幼稚園と保育園の保護者同士の交流がさらに進み、お互いの状況を認め合いながら子育てができる環境づくり、地域とのつながりなど、なかよしこどもセンターとして今後に向けての課題が整理されてきました。

幼保一体型のなかよしこどもセンターが子ども達の健やかな育ちの土壌となりえるように、これからも保護者の方々と手を結び合い、職員一同励んでいきたいと思っています。

今回の第三者評価に当たり市民セクターの皆様には長い期間にわたり根気よく調査をしていただき終了することができました。心から感謝申し上げます。

なかよしこどもセンター  
園長 川島佐和子

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>

---

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価・改善事業ユニット

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>

---